

## ■BF連盟戦記8 杏子・明日香編一体験

——バトルファック！ それは男女が互いのプライドを懸けて性の技を繰り広げ合う競技である！  
そして『BF連盟』はバトルファックを普及するため日夜ハッスルする組織である！  
今日も連盟の普及活動として、新たな犠牲者が招かれた！

『オーケー！ 今回はデュエルリンクスで人気の美女決闘者にお越しいただいたぞ！ 真崎杏子と天上院明日香のお二人だ——！』  
「まさか、こんなものに出るなんてねー……。っていうか、あたし決闘者じゃないわよ？」  
「どいつもこいつも、私たちをジロジロ見て……。早く済ませるわよ、こんなこと！」

ゲストを招いたスペシャルマッチに参加させられたのは真崎杏子と天上院明日香。  
共にスタイル抜群の女性で、BFリングコスチュームとして着せられたビキニ水着でメリハリのついた身体つきを惜しげもなく晒している。  
まずは意外にもこういった場に慣れているような杏子に対し、試合前インタビュー。

『まずは杏子さん、落ち着いていますがBF経験があるのでしょうか？』

「ないわよ、そんなもの」

『これは意外！ プロフィールではダンサー志望のようですが、ではこれが影響して人前に出ることに慣れているということ？』

「……誰が漏らしてるのよ、その情報……まあ、そんなとこかしら」

『ちなみに通常の性経験は……』

「どうでもいいでしょ！ そこまで話す義理ないわよ！」

（レイプされたことが多すぎて場慣れしてます、なんて言えるわけじゃない……！）

話を切り上げる杏子だが、BF経験こそないものの、性経験は豊富……というより、まともな経験は皆無に等しいものの被害経験が数えきれないほど充実していた。

顔もスタイルもいいからか、バイトで痴漢されるのは当たり前。

酷い時は仮想空間で洗脳され、ドスケベダンスなる卑猥な真似をさせられ肉便器と化していたこともある始末。

そんなこともあって、元々気の強い杏子にとって水着で見られようが今更であり、緊張する理由がなかったのだ。

『連盟の記録にもないので、BF経験は本当はないのですが、これは楽しみですね。では続いて明日香さん……こちらは経験者です！  
連盟の記録に名前が残っております！ あえて戦績は申しませんが、今回勝つ自信は？』

「っ……だ、誰が相手だろうと負けないわ！」

(この言い方……やっぱり私が惨敗したこと、みんな知ってるのね……！)

杏子と対照的に、BF経験がそれなりにあるものの観客からの視姦に頬を赤らめて余裕のない明日香。

実は彼女、過去にとある事件に巻き込まれ……ドスケベダンスデュエルなる変則BFを強いられたことがある。

結果は惨たらしいものであり、快楽地獄に墮とされた明日香は男を見る目、男の視線への認識が変化し、視線に晒されることに苦手意識を持つようになった。

BF連盟にもその情報が流れており、得物を狩るケダモノの目で見られ、柄にもなく股を閉じて女性らしい仕草を見せる。

『果たしてこれは自信があるのかないのか……では、まずは杏子さんリングへどうぞ！』

## ◆BF連盟のバトルファックルール

対戦形式……

『エンドレス』制限時間なし、精力が尽きるor失神でKOされる、もしくは降参で決着がつくまでの勝負。

基本ルール……

BF連盟のリング上、男女それぞれ一人ずつによる一対一の対戦。

絶頂や精力が残っているかはリングや会場の快感センサーや審判の判断で判定される。ただし選手の状態によっては続行可能の確認や意思表示が必要。

意思表示には言葉での自己申告の他、自ら行為し続ける、勃起を見せる、ファイティングポーズやピースサインを見せる、などでOK。

リング・会場は連盟が結界を施しており、近寄ると攻撃系の能力が制限・封印される。ただし試合で勝利することで解除可能。

敗北条件……

精力が尽きる、ダウンから10カウント、失神、降参、ルール違反など。

他、審判が続行不能と判断した場合。

ただし試合を盛り上げるため、挿入や膣内射精、KOが間近、などのタイミングでの降参は無効と判定されることがある。

また、ダウンしても追撃が行われた場合は基本的に10カウントしない。

一度絶頂しても精力が残っていれば続行可能。



「じゃ、行ってくるわ！」

「ええ、がんばって！」

【よ、よろしくお願いします】

『BF経験量を考慮して、杏子の相手は中位リーグの選手が用意されたが……むしろこちらの方が緊張しているか？ ふてぶてしい杏子にBF洗礼を浴びせたいところだ、がんばれ少年！』

（ははーん、こういうタイプね……これはもらったかも♪ こっちはこういうやつの相手、山ほどしてるのよっ！）

杏子は被害経験が多すぎて逆に恥じらいもなく、堂々としてコンディションも良い状態。

更に相手は気弱な少年。杏子のBF経験の無さから半端な男が選ばれたのだろうが……幸いにもこの手の少年は何人も相手したことがある。

被害経験豊富な杏子だが、その全てが一方向的な陵辱だったわけではない。

時には奉仕という形で淫行を強いられ、その際に男の悦ばせ方を学んでいる。

こういった類の少年を果てさせるのは杏子にとってむしろ得意分野なのだ。

『では試合開始——！』

「いくわよ！ 私のターン！」

どぶるんっ♥

【え、あっ……ああっ！】

ぎゅちいいっ♥

『杏子、胸を寄せて挑発ポーズ！ そして近寄り、組み付いて手コキ攻撃！ 早い！』

胸を強調して揺らし、少年が見惚れた隙に一気に詰め寄っての手淫。

落ち着かない相手に速攻は効果観面で、上手く決まったのもあり杏子は蠱惑的に微笑みながら少年の肉棒を扱き立てる。

気弱そうでも代表選手だけあり、大きさも硬さも申し分ない。まともに責められれば淫闘で勝つのは難しいだろうが……

「こうなったら、おっきいおちんちんも形無しね♪」

『代表選手は胸に気を取られて動けなかったか？ あっさり接近を許してしまった！ 目をうっとりさせて手コキを受け続けている、相性が悪かったか、それとも隠れた実力者だったか——?!』

しこっ♥ しこっ♥ ぎゅちゅ♥ ぬちゅっ♥

【あ、あうっ♥ うっ、あ……んむうっ♥】

『手コキを続けたままばふばふ……というよりブレストスムーザー！ 顔に胸が押し付けられるが、押し付けるというより自分から胸に吸い付いているようだ！ 早くも陥落してしまったのか！ このままだとおっぱい窒息は確実！』

「あら、もう我慢できなくなったの？ しょうがない子ねえ……♪」

少年は蕩けた目で杏子の成すが儘になっており、杏子が押し付ける以上に少年の方が顔を近づけている。

降参、とまではいかずとも、今は完全に杏子の手と胸に魅了されているのは確実。

敵が心変わりしない内に一気に責め立てる。胸を強く押し当てると勃起が苦しそうに痙攣し、そこで手の動きを速め……

「なら……おっぱい大好きおちんちん、とつととイッちやいなさい♪」

しこっ♥ しこっ♥ ぐぢゅんっ♥ ぎゅむううっ♥

【んぶっ♥ んっ♥ んあっ♥ ん……～～～っ♥】

ビュルルッ♥ ビュビュッ♥ ビュルウウッ♥

『あぁーっ！ 何と開始僅か、ここで代表選手が手コキ射精——！ 大きな胸に顔を沈めながら、無様な空撃ちをしてしまった——！』

びくんと一つ震えた直後、少年が大量射精。まだ精力は残っているため試合は続くが、予想外な杏子の積極性と一方的な展開に客席からは悲鳴、歓声、落胆の声が上がる。

「あはっ♪ やっぱりスゴい量ね……でも、まだまだイケるんでしょ？」

ぎゅううっ♥ ぎゅちいいっ♥

【んぶあ……♥ あ♥ ああ……っ♥】

「情けないわねえ……反撃しないの？ じゃあ……」

みぢっ♥

【ひっ♥】

「このままずうっと、あたしのターンみたいね♪」

しこしこしこしこっ♥ ビュルウウッ♥

【んんんお～～～っ♥】

更に乳圧を強め、高速手コキで浅くイかせて我慢汁射精させる。

胸の中での悲痛な悲鳴と震えは杏子を更に嗜虐的にさせ……過去に受けた陵辱への八つ当たりじみた感情も含め、少年を逃がさず搾精し続ける。

「はあっ……♥ なんか、エッチなリズムに乗って来ちゃった♥ このままのペースで行くわよ……♥」

【んんっ んーっ ふはっ んぶうっ?! ん……】

ぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅっ♥ ぢゅぐんっ♥ ビュルッ♥ ビュビュウウウッ♥

【~~~~~っ♥】

『杏子、プレストスモーカーから逃がさない! ロープ際に追い詰めて立ったままの授乳手コキで責め続ける! このまま決着がついてしまうのか——?!』

二度、三度と射精させ……かなり搾り取ったものの、まだ少年の精力は尽きていない。  
相性やテクニックでは杏子の方が有利だが、流石に精力はしぶといものがある。  
予想以上の精力に、杏子の方も変なスイッチが入り……

「あんたがあたしをヤル気にさせたのよ♥ んじゅるるっ♥ 責任……取りなさいっ♥ じゅぽおおっ♥」

【んはああっ♥】

『授乳手コキからフェラへと責めを切り替えた! ここで一気に搾り取るつもりだ!』

「あはあっ♥ こんなしぶといおちんちん初めてよっ♥ じゅぶりゅっ♥ じゅちゅうううっ♥」

『本当にBF経験がないのか? 最近の若い娘は一体どうなっている?! おおっとここで更に——』

「ほらほら♥ 大好きなおっぱいにおちんちん飲み込まれる気分はどう?♥」

ぎゅむんっ♥ みぢっ♥ みぢっ♥ みぢっ♥ みぢっ♥

【はうっ♥ あ♥ あ♥ ううううっ♥】

『パイズリ責めに移行! 鮮やかな責めで代表為す術なしか!』

「人の胸ばっかり見てるからこうなるのよっ♥ ほらほらあ♥

お願い♥ まだイカないで、ショタちゃんぽくん♥

これでイッたら、ドスケバパイズリダンサーをコテンパンにハマ堕とすっていう目的はどうなっちゃうのお?♥

まだ精力は残ってるわよ♥ ここで我慢できれば、まだ勝ち目はあるんだからあ♥」

【うっ……むりっ♥ つああっ♥】

ドッビュルウッ♥

「あはあんっ♥♥」

『パイズリ射精——! これで何度目の射精だ?! 代表選手が完全に素人にヤられるサンドバッグと化してしまっている!』

「んっ……それでもまだ精子空っぽにならないの? なかなかしぶといわねえ……ならっ♥ じゅぶぶぶっ♥ ずぽおおっ♥」

『パイフェラ責めで胸と口の両方で責める！ 本当にBF経験はないのか——?!』

ばるんっ♥ ぎゅむんっ♥ ぶるうんっ♥

「まだ出るんでしょ♥ いっぱい出して♥ おっぱいに中出ししてえ♥」

ドブッ♥ ビュブウウッ♥

「ああああんっ♥♥ イックううううううっ♥♥」

『再び乳内射精——！ これは杏子も同時に絶頂したか？ 杏子の方は余裕があるが……しかしなかなか搾り切れない！』

胸の中で白濁が送り、熱感に杏子も達してしまうが、これでも少年の精力が尽きない。

だが流石に限界に近いはず。

杏子は興奮に任せて攻撃し続けようとしたところ、危機感を覚えたのか、少年がもがきだす。その際、指先が杏子の股間に伸び……

「はあ……♥ はあ……っ♥ もっとよ……♥ あ、こら♥ 暴れないの……♥」

カリッ♥

「あっ♥♥」

『おっと、これはクリトリスに当たったか？ 杏子の表情に変化が出た！ これは思わぬ弱点か——？』

(急に暴れるからびっくりしちゃったじゃない。クリは弱いよね……でも、このくらいなら……)

どくんっ♥

「んひっ♥♥ あれ……♥♥ これ……まさか……♥♥」

(身体が、急に熱く……これ、『洗脳』と同じ感じの……♥♥)

『やはり弱いところにかすめたか、杏子、明らかに動揺しだした！ まさかここから逆転があるのか?!』

少年が使ったのは淫気——強制発情能力。精液を直接浴びせ、陰核にも刺激を与えたことでようやく発動できたのだろうが……この淫気で得られる昂揚感は、杏子がかつて心身を支配されたものに酷似していた。

得も言われぬ恍惚を思い出し、陰核から一気に全身へ甘い熱が広がっていく。

(まずいわ、早く仕留めないと……♥♥)

ぢゆるっ♥ ぐちゅううっ♥

「ああっ♥♥ この……大人しくおっぱいに扱かれてなさい♥♥ ああんっ♥♥」

『ここで代表ようやく攻撃！ 乳吸い手マンで反撃に出た！ 胸も敏感なのか、かなり効いている！』

【感度自体が良いんだよね？ く、クリ触りながらだと、感じまくってるよ……！】

「そんなことないわよ♥♥ ずっとしてたから濡れただけで……」

ぐちいっ♥

「おほおっ♥♥」

『淫らな喘ぎが出た！ クリトリスが扱かれて腰が浮いている！ 杏子、震えが止められない——！』

（やばっ♥♥ 軽いんだけど……キてる……♥♥ が……我慢……しないとお……♥♥）

ぐちゅぐちゅぐちゅっ♥ ずりゅんっ♥ ぎちゅううっ♥

（あっ♥♥ むりっ♥♥）

プシヤアアッ♥

「おっほおおおお♥♥ クリシコいっくうううんっ♥♥」

『ここで二度目の軽い絶頂——！ クリトリスを扱かれて少量だが潮噴きを晒してしまう——！ まだ余裕はありそうだが、ここから逆転されてしまうのか——？』

胸に吸い付いたまま陰核を扱かれ、腰が震えて責め手が止まる。  
全身が強く発情した今、胸も乳首も敏感で、陰核を責められるほど感じてしまう。  
表情も緩み、甦られることに悦ぶ被虐欲求がむくむくと沸き上がって来る。

「あへえ……♥♥ クリ……らめなのにい……♥♥」

（やば……♥♥ 本性出ちゃう……♥♥）

『ここで代表が一気に責める！ 押し倒してマウント……いや、シックスナイン！ 徹底してクリトリスを責める気だ！』

くりくりくりくりっ♥ ずちゅっ♥ こりこりこりこりっ♥

「んっひっ♥♥ べ、別に、そこ感じてないからっ♥♥ んぼっ♥♥ 手でも、吸ってもっ♥♥

んべえっ♥♥ 舌で、転がひてもお♥♥ おぼっ♥♥ か、感じあひいっ♥♥」

『代表の手マンとクニのクリ責め、杏子はフェラで対抗するが、完全に力が抜けている！ クリが吸われてまた腰が震えたー！』

びくんっ♥ がくがくっ♥

「クリトリス感じてないって言ってるでしょっ♥♥ おおんっ♥♥ し♥♥ しっこっ♥♥ あっその吸い方だめええっ♥♥」

ぢゅうううっ♥ プシッ♥♥ プッシヤアッ♥♥

「あっへえ♥♥ またクリイキ晒すううう♥♥」

『またしてもクリトリスで絶頂——！ 余裕があるのかないのか、杏子の素直な反応に代表がつつり付け入っている！』